

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2374000384		
法人名	医療法人静巖堂医院		
事業所名	グループホーム好日庵 (2階)		
所在地	愛知県新城市副川字大貝津13		
自己評価作成日	令和4年1月18日	評価結果市町村受理日	令和4年2月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2374000384-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaiyokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2374000384-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
聞き取り調査日	令和4年2月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平成31年2月に1ユニットから2ユニットとなってから3年目に入った。今年度は新型コロナウイルス感染症の十分な活動ができない中、入所者さんが主体的に参加できるように工夫し合同お楽しみ会を月に一回企画した。また感染が落ち着いた秋には、思い出の場所や行きたい所を訪ねる「個別外出支援プロジェクト」を家族の協力を得ながら実施できた。冊子としてまとめ、家族からのメッセージも加え家族の方全員に配布した。コロナ禍で家族会が開催できない中、他の家族や入所者さんの様子を伝えられたことは、家族同士が知り合う良い機会となった。またそれぞれのユニットが抱えている困難事例のテーマをもとに、事例検討会を始めた。2か月に一回であるが運営理念を基に認知症ケアを学ぶ場として、職員の全員参加を基本として、事例によっては他職種の助言や講義をいただいたりして、どのレベルの職員にとっても楽しい実りある検討会になることを目指している。コロナ禍でも、創意と工夫のできる事がある事を見つけて乗り切っていきたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

◎軽減要件適用事業所  
 今年度は「軽減要件適用事業所」に該当しており、外部評価機関による訪問調査を受けておりません。したがって、今年度の公表は以下の3点です。  
 ①別紙4「自己評価結果」の【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点】と「自己評価・実践状況」  
 ②軽減要件確認票  
 ③目標達成計画

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	職場に理念を掲示し、共有し実践している。年間目標をたてるときには、理念を基に作成している		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	回覧板の受け渡しで地域の情報を収集し、参加できるところはできる限り計画して参加している。バス停の掃除・地域花壇の草取りなど定期的に行っている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	認知症の方の理解・啓発のためラン伴に参加して外出支援のためのベンチづくりを地域の方と一緒にやった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議に民生委員・区長が参加され活動報告を行っている。会議録は職員が目を通すことができるようファイリングする前に回覧するようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議の報告書を提出し、その時に必要なことの連絡を取っている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体的拘束防止に関する研修を年に2回実施している。スピーチロックについてアンケートと課題レポートを提出し自己の行動を振り返ることができた。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	市が開催した「虐待防止の研修会」に参加し、その内容を職員で共有し防止に向けて事例を通して学んだ。虐待の原因に職員のストレスも考えられるためお互い声を掛け合って注意を払っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	利用者さんに身寄りのない方がいて、社会福祉協議会で後見人を申請している。それを通して理解を促している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	今年度介護保険の改定がなされ、それについての家族の方への説明し同意をいただいた。新規契約の方が見えて、家族や本人の要望を聞きケアプランに活かしてケアにつなげている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	今年度は、コロナの為に通常の家族会などの運営が十分にできていないため、アンケート調査を独自に実施する予定である		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員との個別面接・リーダーとの面接の機会を設け意見を聞く機会がある。運営に関して、関わることには必ず関わる職員の意見を反映するように努力している		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	今年度は特定処遇改善加算を申請したことで、給与面で上がり、質の向上として職員も年間目標を掲げそれぞれが取り組むことでやりがいにつなげてゆきたい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	人材育成達成計画書を整備し個人のできているところ課題を確認できるようにしている。今年度より2か月に一回「事例検討会」を開き、全員参加で行って学びの機会にしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	東三河GH連絡協議会への参加と情報交流をしている。作品展に参加した。コロナ禍の為相互訪問はできていない		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	日常生活支援の際に、本人とのコミュニケーションを通して訴えや要望を聞き、その情報を職員で共有している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入所初期においては、家族の方の不安を取り除くように情報提供を密に行い、その時に要望など聞いて信頼関係づくりに配慮している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	主にケアマネージャーが担当しているが情報の共有は密に行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	理念の一つである尊厳のある生活の支援をGHの第一の柱にして実施している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族も共に本人を支えてゆくという認識のもと、家族にしかできない支援もあるため、連携を密にしながら情報共有し運営を進めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	美容院・かかりつけ医など、また親しいとの面会、本人にとって大切な場所の訪問等、できる範囲で計画を立て実施している		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の関係を把握し、座る席などの配慮も含めた環境づくりに配慮している。また職員は利用者同志の関係づくりに介入しすぎず、表情を見て孤立しないように心がけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	亡くなられた方へ、初盆の時にはお参りをさせていただき、お話を聞きながら思い出話をした。その中で必要時支援に結びつけれるように配慮している		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の中で思いを聞き取りながら検討をしている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入所前の情報やその後の会話の中で把握するようにしている。その情報はセンター方式の用紙に記入し情報を共有している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	センター方式で年に一回、できることできないことシート、わかることわからないシートの情報を集めながら、生活支援を見極めるようにしている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケアプランの短期目標を介護記録用紙の中に入れることで日々のケアとケアプランが結びつくようにして、それらからモニタリングにつなげている。ケアプランに関してさらに職員に十分周知できる仕組みを作りたい		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	記録・情報共有し見直しに生かしているが、さらに必要な情報を詳しく記録して介護をよりよく行えるようにしてゆけるとよい		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	毎日の生活の記録やバイタルチェックによる健康記録から職員間の情報を共有したり気づいたことを朝のミーティングで情報交換している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域活動を回覧板で確認してできる範囲で参加している。特に地域花壇に関しては、できる利用者は少人数であるが、草取りや植え替えなど一緒に行っている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入所前のかかりつけ医に継続して書かれるように連絡調整をしている。家族や本人が希望する場合には、当法人の医師に主治医になってもらっている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	管理者が看護師であり職員の一人が准看護師であるため健康管理等には気をつけて異常があればアドバイスし、受診につなげている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した時には、所定の用紙に情報を記入して担当の看護師に提供している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入所時に事前確認書を作成し、意思の確認を行い、看取りになった場合にはその意思を参考に家族等と話し合いをもって同意したうえで支援を行っている。厳末期という難しい事例であったが、納得のいくよい看取りができた家族にと喜ばれた		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時の対応マニュアルを作成している。今後さらに初期対応の訓練を定期的には実施して実践力を身につけることを目指したい		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	月に一回災害の日を作りその時に災害食を食べたり点検を行ってローリングストックしている。年に一回地域の方と一緒にホームで災害訓練を実施している。現在BCPについて取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	理念で尊厳の保持をうたい、ケアの中で一番の主軸にしている。人生の先輩としての敬う気持ちを忘れないで言葉かけには注意して支援している。研修でこのテーマについて取り上げた		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	話しかける時には、本人が選択できるような問いかけをするように注意している。言葉を間違えると言葉による拘束にもなりかねないことを常に伝えている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人の時間はおおむねあるがその人に合った時間も大切にしている。職員は強要をすることはなく、利用者さんは思い思いに過ごされている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	寝る時朝起きた時は着替えることで、メリハリをつけ着替える時には入所者さんが選択しやすいように声をかけている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	献立作成は一緒に考え希望を取り入れている。できる範囲でその人の力にあった働きかけをしている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	特に蛋白質の摂取に関しては、食事の調査にて不足がちであったために、現在一人一人に合った摂取しやすい工夫に取り組んでいる。必要時、水分摂取量を記録している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、全員口腔ケアに取り組んでいる。特に歯科衛生士さんから月に一回アドバイスをもらっているため一人一人に合った方法で実施している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	快適な排泄とその方にあったパターンやリズムパットの種類などを常に職員同士で情報交換してより快適に過ごせるように支援している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	腸内細菌や食事により排便を促し一日に一回玄米食を取り入れて、自然な排せつを促すように支援している。長年の習慣であった下剤を服用しなくても排せつできるようになった方もいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	入浴はゆったりとした気分で行えるように一人一人個別の支援を行っている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	入所前の生活習慣を大切に、寝るまでの間ゆったりとした時間が持てるように、その方のペースに合わせて介助し、寝具についてはいつも清潔な状態し気持ちよく休めるように気を配っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	一人一人の服薬説明書がファイルし、いつでも確認ができる。また調剤薬局の薬剤師さんから適切な薬に対するアドバイスや情報をもらうことができケアに生かしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	編み物が好きな方、散歩が好きな方とか一人一人は個性豊かな特別の存在として接し対応している。月に一回のお楽しみ交流会では、司会役や接待役など役割を作り活躍できる機会となっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナが落ち着いた10月から11月に、外出支援プロジェクトを組み実施した。ホームでは見られない自然な表情がたくさん見られ、日頃のケアを振り返るいい機会になった。それらを冊子にまとめて家族全員に配布した		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金の管理は難しい方たちが多く、欲しいものがあつた場合には、財布をもって職員と一緒に掛かけ、預かつたお金から出してもらうように働きかけている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	電話はいつもかけられるようにしている。家族が時々手紙が届く利用者さんに対して、返事を書いて出したら家族の方が大変喜んでくれた。年賀状もかける人には書いてもらい家族の方に出した		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節を感じる壁飾りを利用者さんと一緒に作り壁に貼つて感じるように働きかけている。特に大きな音に関しては、混乱や不安を招く原因にもなりやすいのでテレビなどは注意して利用を促す必要がある。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合つた利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	2階は広すぎて逆に生活感が乏しい感じがあるため今後取り組む課題である		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室においては、家族の写真を飾つたりなり親しんだ家具、自分のものだとわかるような物を置き安心して過ごせるような工夫に心掛けている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	洗濯を干す場所・入浴する・食事の支度をする等、日常生活がなるべく自立できるように工夫している		